

<大阪府指定文化財 有形文化財（建造物）>

名 称	すみよしだいしゃ 住吉大社 せつしや し が しゃほんでん 摂社志賀社本殿 木造、三間社流造、見世棚、本瓦葺、建築面積 8.6 m² せつしやわかみやはちまんぐうほんでん 摂社若宮八幡宮本殿 木造、一間社切妻造、本瓦葺、建築面積 5.8 m² お ぶ ん こ 御文庫 土蔵造 2 階建、本瓦葺、建築面積 28 m²
員 数	1 件（3 棟）
所在地	大阪市住吉区住吉 2－9－8 9
所有者	宗教法人 住吉大社
年 代	志賀社本殿 17 世紀後期、昭和 38 年（1963）移築 摂社若宮八幡宮本殿 文化 7 年（1810）頃 御文庫 享保 8 年（1723）頃／江戸末期改修、昭和前期移築
説 明 1 住吉大社の概要・沿革 住吉大社は大阪市住吉区に所在する、全国にある住吉神社の総本社である。摂津国一宮としても知られ、近代の旧社格制度のもとでは官幣大社に位置付けられた。その起源は奈良時代以前に遡り、4 棟の本殿は天平 3 年（731）の奥書を持つ『住吉大社神代記』^{（註1）}に見られ、祭神は住吉三神（底筒男命・中筒男命・表筒男命）と神功皇后である。 住吉大社の境内の造営は、奈良時代以前より幾多も行われたと伝わるが、近世期には、豊臣家、徳川家等によって数多くの造営がなされた。主要なものとして、豊臣秀頼による慶長 11－12 年（1606－1607）の造営、徳川秀忠による元和 3－4 年（1617－1618）の遷宮に伴う大規模修理、徳川家綱による承応 4 年（1655）の遷宮に伴う造営、享和 2 年（1802）の本宮全焼に伴う文化 7 年（1810）の造営等が挙げられる。近代に入り、明治維新後の社寺領上地や廃仏毀釈によって明治 6 年（1873）には神社境内の中に存在した「神宮寺」は取り壊され^{（註2）}、その跡地に参集所や神楽殿等の造営が行われた。 現在の境内は、中心部に第一本宮から第四本宮を配した「本宮域」、その北側に近代以降整備された「社務所域」、さらにその北側には摂社大海神社を中心とした「大海神社域」、境内の南側に大正天皇の即位を記念して整備された神館を中心とした「神館域」の大きく四区画で構成されている。 この境内には国宝の本殿 4 棟や重要文化財に指定されている摂社大海神社本殿等、近世期に造営さ	

れた建物も残るが、近代以降に造営された建物も多く、近世・近代の建物が混在し境内景観を構成している^(註3)。

また境内の建物の全体的な特徴として、本殿と同様、住吉造に準じている社殿が点在している点である。本殿は、瑞垣と荒垣に囲まれた中に建ち、妻入式の切妻造の直線的な屋根、室内は外陣と内陣の二間に分け、内陣をやや高くして床を張り、外陣正面と内外陣境に板扉を設ける。柱は丹塗、壁は胡粉塗とし、屋根棟頂には堅魚木と千木を置く。同様の形式を住吉大社摂社大海神社本殿は有しているが、その他、妻入切妻造で柱は丹塗、壁は胡粉塗としている住吉造に準じているとされる一間社程度の小ぶりの社殿が、境内には7棟あり統一感のある賑やかな景観を生み出している^(註4)。

なお今回の指定候補とする建物は、「本宮域」と「大海神社域」に残る、近世期に造営が行われたものであり^(註5)、いずれも国の登録文化財（建造物）に登録されている。

2 指定候補の建造物

(1) 摂社志賀社本殿

摂社志賀社本殿は、大海神社域である住吉大社摂社大海神社本殿の南側に西面して建つ。大海神社域は、本殿群は宝永5年（1708）、西門は江戸初期に遡ることが知られ、国宝本殿よりも古い遺構が残っている。摂社志賀社本殿は、福岡市東区志賀島の志賀海神社が本社であり、^{わたつみ}海神三神を祀る。

構造形式は、三間流造、見世棚、本瓦葺の社殿である。規模は桁行 2.730m (9.01 尺)、梁間 1.30m (4.31 尺)、庇出 1.146m (3.78 尺) である。住吉大社の摂末社社殿の多くが、住吉造を彷彿させる切妻造の小規模な一間社であるのに対し、境内唯一の三間流造であり、これは^{わたつみ}海神三神を祀ることに依拠しており、また航海信仰の大海神社域内を示す上でも大きな特徴である。

亀腹基壇上に丸柱を立て、腰貫、頭貫で固め、切目長押、内法長押をうち、組物は大斗肘木とし、中備は配さない。妻は虹梁大瓶束として大斗肘木で棟を受ける。軒は一軒の繁垂木として、正面柱間には方立を入れ、板扉を嵌める。身舎正面側に切目縁を回して、組高欄を置き、見切りには脇障子を建てる。拝み、下り懸魚は猪の目懸魚とする。庇柱は角柱で、中央2本の柱上に出三斗、両端柱上に連三斗を配す。庇下正面には木階五級を置くが、浜床は設けない。本宮本殿と同様、柱などの軸部は丹塗、壁は胡粉塗りとする。

建築年代は、宝永年間の造営の事前調査のために作られたと伝わる元禄期（1688－1703）の『住吉松葉大記』間数部^(註6)に記された当本殿の規模が現状と一致していることから、宝永5年（1708）の大海神社本殿より古く、少なくとも元禄期以前には存在していたと考えられる。また、承応2年（1653）の『摂津国住吉社絵図』^(註7)においても同様の三間社が描かれていることや、妻虹梁や海老虹梁が渦巻きの浅い円形渦紋、向拝の虹梁型頭貫は木瓜型の渦紋であることなど、細部様式から判断しても17世紀後期頃とするのが妥当である^(註8)。住吉大社境内には本殿のほか摂社末社を含め社殿が13棟あるが、多くが江戸後期から近代にかけて造営されたものであることから、摂社志賀社本殿はこれらの中で最古級^(註9)の社殿であるといえる。なお『摂津国住吉社絵図』より元は大海神社北西に位置していたが、昭和38年（1963）に現地へ移築され、平成24年（2012）に屋根修理及び塗装工事が行われている。

（２）摂社若宮八幡宮本殿

住吉大社境内摂社の一つである若宮八幡宮本殿は、本宮城の南東に隣接し西面して建つ、第四本宮の祭神である神功皇后の御子にあたる応神天皇を祀る摂社である。境内の摂末社には江戸時代以降も位置を変えているものが多いが、当社殿は江戸時代を通じて位置を変えずに祀られてきた。

構造形式は、一間社、切妻造、妻入、本瓦葺である^(註10)。規模は、桁行 2.381m (7.86 尺)、梁行 1.895m (6.25 尺) である。正面、奥行きともに一間の小社でありながら、前面に五級の木階を備え、直線の屋根、豕叔首や懸魚の形は本宮本殿と同じである。本殿の内部は板扉で仕切り二室とし^(註11)、その内陣扉には金地に松と白い鳩を描いた極彩色を施している。本宮本殿と同様、柱などの軸部は丹塗、壁は胡粉塗りとする。全体として住吉造に準じた構造形式である。敷地内には、先述した通り同様の住吉造に準じた社殿が点在するが、摂社と末社を比較すると末社の方が、外陣扉の無いものや内陣が分かれていないものも多く、摂社の方がより住吉造に準じていると言える。その他の類例としては、摂社船玉神社が挙げられるが明治期の建造となる。

建築年代は、享和 2 年(1802) の火災後に再建されたものであり、「文化の造営」で再建されている可能性が高いことから文化 7 年 (1810) 頃とする。現在の遺構は、明治初期の『摂津国住吉社境内絵図』^(註12) に記された規模と一致しており、さらに元禄期の『住吉松葉大記録』間数部に記された規模とも一致している。また承応 2 年の『摂津国住吉社絵図』にも同規模の社殿が確認される。つまり、文化 7 年頃の造営で、少なくとも江戸中期頃の規模を踏襲して再建されたことが確認できる^(註13)。さらに、扉絵については太田南畝の『葦の若葉』(享和元年) に、延享 4 年 (1747) に杉森由泉によって松と鶴の扉絵が描かれていることが記載されているが、現在の社殿には松と白い鳩 4 羽が描かれ「友寛齊蘭溪謹書」の落款が残る。再建時に、同様なモチーフの扉絵で復する方針が窺える^(註14)。また、『摂津国住吉社境内絵図』に鳥居の記載がみられることや「官幣大社住吉神社境内地及建造物実測図」に玉垣が描かれており、「住吉松葉大記」間数部に記載されている当初の姿を目指し、旧規に基づき再現したことが窺える。

（３）御文庫

御文庫は本宮城の北側、住吉神宮寺跡に近接する。享保 8 年 (1727) に大坂、京都、江戸の本屋仲間^(註15) の書肆 20 名が、住吉大社に出版物を納める「蔵」を寄進する発願書を出したことが契機となり建築された。

神社の文庫は、神社内で必要な文献等を保管するのが一般的であるが、御文庫では版元から多くの書籍が奉納され、それを一般にも公開したことから大阪最古の図書館とも称される。御文庫の建立後、蔵の運営管理を担う「住吉御文庫講」が結成され、奉納本の虫干しや蔵書の点検修理、目録の作成などを行った。明治 43 年 (1910) には、享保 15 年 (1730) に結成された「天満宮御文庫講」^(註16) と合併し「大阪書林御文庫講」となり、その活動は現在まで引き継がれている。

構造形式は、土蔵造、二階建て、寄棟造、本瓦葺である。漆喰壁で海鼠壁の腰を持つ。一階は北側側面に 1 ヶ所、二階は南北両側面に 2 ヶ所、八角に縁取りした鉄扉を持つ丸窓を配する^(註17)。正面扉には唐破風の庇が掛かる。庇柱は面取角柱であり、庇柱間には虹梁形頭貫、身舎付柱と庇柱には、

頭貫を通してこれを固める。柱上には大斗肘木を置き、正面は中備に墓股を置いて、虹梁を架け、側面は菖蒲桁を架ける。虹梁中央上部には笈形付大瓶束を立て、化粧棟木を受ける。庇は全面塗籠としている。この唐破風は、御文庫建立発願文に描かれている図や虹梁の絵様より、江戸時代末期に後補されたものと推定される。内部は南西隅に階段を置き、小屋組みは柱上部に梁を架け、その上に束を立てて棟木、隅木を受ける。

御文庫の建築年代は、江戸時代中期の絵図『摂津国一之宮住吉大神宮境内之絵図』に「文庫桁行三間梁行二間瓦葺」と享和4年（1804）の「住吉大社建物配置図（享和焼失図）」により享和の火災を免れていることが分かり、享保8年の発願から程なく建立され、現在に至っていると考えられるため、享保8年頃とする。なお、当初の建築位置は現在よりも、約30m西の第二本宮北側であったが、昭和前期に現在地に移築されている。近年では平成23年に修理が行われている。

3. 評価

以上のように住吉大社境内に残る近世期に造営された摂社格の社殿2棟と、出版業者による造営と管理運営が特徴的な御文庫という歴史的建物群についてみてきた。

住吉大社摂社志賀社本殿は、重要文化財である大海神社の社殿域で祀られてきた摂社である。境内唯一の三間社流造である点に大きな特徴があり、住吉大社の航海信仰を捉えることができる建築でもある。また境内の社殿の中で最古級であることも、大阪を代表する住吉大社の境内遺構として貴重である。

摂社若宮八幡宮本殿は、住吉造に準じた構造形式をもつ一間社であり、住吉大社本宮域における摂社の古式を残す貴重な遺構である。

御文庫は、本屋仲間による寄進によって建てられ、所蔵書を一般へ公開した点、「住吉御文庫講」という地域組織が今もなお蔵書の運営管理を担っているという点は、府内には現存する類例はなく、享保年間に建立された府内でも極めて希少な江戸時代の文庫である。建築としても、窓の斬新な意匠や、江戸時代末期の改修であるが、重厚な唐破風に飾られた表構えなど、大阪を代表する文庫として強い存在感を放っている。

以上のように、上記3棟は住吉大社境内に残る江戸中期から後期にかけての、境内を構成する特色のある歴史的建造物である。住吉大社は、戦火等に伴う整備や遷宮などで度重なる造営を行っており、また近代期には廃寺となった神宮寺跡地への造営といった変遷もある。そのような中で上記に挙げた3つは、移築などがされながらも古来の住吉大社の航海信仰であったり、古式な住吉造に準じた社殿の様相であったり、また大阪最古の図書館というシンボリックな存在として、住吉大社の境内を国指定文化財と共に形成する重要な歴史的建造物である。以上よりこれらは、大阪府を代表する神社である住吉大社において、高い歴史的価値を有することから、総じて大阪府指定文化財としてふさわしい。

【註】

（註１）住吉大社の由来について述べた古典籍で、「住吉神代記」として国の重要文化財にも指定される。

（註２）取り壊しではなく移築若しくは売却されたものもあり、その例として、神宮寺の護摩堂は住吉大社末社招魂社本殿として境内北東に移築、神宮寺の西塔は切幡寺大塔として移築され、それぞれ重要文化財指定となっている。

（註３）境内の建造物で国指定、もしくは国登録文化財になっているものは表１の通りである。

国指定の建造物は 18 棟、国登録文化財の建造物・工作物は、今回の府指定候補 3 棟を含む建造物 28 棟と、鳥居などの工作物 7 基それぞれ 28 棟、7 基である。また境内は大阪市指定「住吉大社境内」として大阪市の史跡指定とされる。

表１ 住吉大社の文化財（建造物）一覧（建築年代は文化財データベースを参照、年代順）

	建造物名	員数	形式
国宝 （４棟）	住吉大社本殿 第１殿	1 棟	住吉造、桧皮葺
	住吉大社本殿 第２殿	1 棟	住吉造、桧皮葺
	住吉大社本殿 第３殿	1 棟	住吉造、桧皮葺
	住吉大社本殿 第４殿	1 棟	住吉造、桧皮葺
重要文化財 （14 棟）	住吉大社摂社大海神社本殿	1 棟	住吉造、桧皮葺
	住吉大社 南門	1 棟	四脚門、切妻造、本瓦葺
	住吉大社 東楽所	1 棟	桁行十一間、梁間二間、一重、東面入母屋造、西面切妻造、本瓦葺
	住吉大社 西楽所	1 棟	桁行五間、梁間二間、一重、西面入母屋造、東面切妻造、本瓦葺
	住吉大社 石舞台	1 棟	石造桁橋及び石造高舞台、木造高欄付
	住吉大社 幣殿及び渡殿（第一殿）	1 棟	桁行 5 間、梁間 2 間、一重、切妻造、正面千鳥破風・軒唐破風付、桧皮葺
	住吉大社 幣殿及び渡殿（第二殿）	1 棟	幣殿：桁行 2 間、梁間 1 間、両下造、桧皮葺、鳥居付き 渡殿：桁行 3 間、梁間 2 間、一重、切妻造、正面千鳥破風・軒唐破風付、桧皮葺
	住吉大社 幣殿及び渡殿（第三殿）	1 棟	幣殿：桁行 2 間、梁間 1 間、両下造、桧皮葺、鳥居付き 渡殿：桁行 3 間、梁間 2 間、一重、切妻造、正面千鳥破風・軒唐破風付、桧皮葺
	住吉大社 幣殿及び渡殿（第四殿）	1 棟	幣殿：桁行 2 間、梁間 1 間、両下造、桧皮葺、鳥居付き 渡殿：桁行 3 間、梁間 2 間、一重、切妻造、正面千鳥破風・軒唐破風付、桧皮葺
	住吉大社摂社大海神社 幣殿及び渡殿	1 棟	幣殿：桁行 2 間、梁間 1 間、両下造、桧皮葺、鳥居付き 渡殿：桁行 3 間、梁間 2 間、一重、切妻造、正面千鳥破風・軒唐破風付、桧皮葺
	住吉大社摂社大海神社 西門	1 棟	四脚門、切妻造、本瓦葺
	住吉大社 南高蔵	1 棟	桁行 3 間、梁間 3 間、板倉、寄棟造、本瓦葺
	住吉大社 北高蔵	1 棟	桁行 3 間、梁間 3 間、板倉、寄棟造、本瓦葺
	住吉大社末社 招魂社（旧護摩堂）	1 棟	桁行 3 間、梁間 3 間、一重、入母屋造、向拝 1 間、本瓦葺
	住吉大社神館	1 棟	木造平屋建、銅板葺
国登録文化財 （28 棟 5 基）	住吉大社摂社志賀神社本殿	1 棟	三間社流造、見世棚、本瓦葺
	住吉大社摂社若宮八幡宮本殿	1 棟	一間社、切妻造本瓦葺妻入、住吉造に準じる
	住吉大社摂社船玉神社本殿	1 棟	一間社、切妻造檜皮葺妻入、住吉造に準じる
	住吉大社末社侍者社本殿	1 棟	一間社、入母屋造、檜皮葺
	住吉大社末社侍者社拝所・神饌所	1 棟	桁行六間梁間三間、切妻造銅板葺妻入
	住吉大社末社楠琺社本殿	1 棟	一間社、切妻造銅板葺妻入、住吉造に準じる
	住吉大社末社楠琺社拝殿	1 棟	切妻造平入、入母屋造妻入
	住吉大社末社龍社本殿	1 棟	一間社、切妻造本瓦葺妻入、住吉造に準じる
	住吉大社末社立聞社本殿	1 棟	一間社、切妻造本瓦葺妻入、住吉造に準じる
	住吉大社末社貴船社本殿	1 棟	一間社、切妻造本瓦葺妻入、住吉造に準じる
	住吉大社末社后土社本殿	1 棟	一間社、切妻造檼瓦葺妻入、住吉造に準じる
	住吉大社末社五社本殿	1 棟	五間社流造、本瓦葺
	住吉大社南絵馬殿	1 棟	桁行三間梁間一間、切妻造本瓦葺、吹放ち形式
	住吉大社北絵馬殿	1 棟	桁行三間梁間一間、切妻造本瓦葺、吹放ち形式
	住吉大社五月殿	1 棟	桁行三間梁間二間、切妻造本瓦葺、吹放ち形式
	住吉大社神馬舎	1 棟	桁行二間梁間三間、切妻造本瓦葺妻入
	住吉大社南手水舎	1 棟	桁行一間梁間一間、入母屋造本瓦葺、吹放ち形式
	住吉大社齋館	1 棟	桁行七間梁間五間半、入母屋造本瓦葺
	住吉大社御文庫	1 棟	土蔵造 2 階建、本瓦葺
	住吉大社幸寿門	1 棟	切妻造銅板葺、四脚門、間口 4.6m
	住吉大社幸福門	1 棟	切妻造銅板葺、四脚門、間口 4.5m
	住吉大社南瑞籬門	1 棟	切妻造銅板葺、四脚門、間口 4.4m
	住吉大社北瑞籬門	1 棟	切妻造銅板葺、四脚門、間口 4.4m
	住吉大社神館西門	1 棟	切妻造本瓦葺、四脚門、間口 4.5m
	住吉大社南中門	1 棟	切妻造本瓦葺、四脚門、間口 5.3m
	住吉大社摂社大海神社南小門	1 棟	切妻造本瓦葺、棟門、間口 2.6m
	住吉大社摂社大海神社北小門	1 棟	切妻造本瓦葺、棟門、間口 2.6m
	住吉大社西大鳥居	1 基	石造、間口 6.1m、高さ 6.4m
	住吉大社南大鳥居	1 基	石造、間口 5.7m、高さ 6.4m
	住吉大社北大鳥居	1 基	石造、間口 5.7m、高さ 6.5m
	住吉大社角鳥居	1 基	石造、間口 4.0m、高さ 4.1m
	住吉大社南脇参道角鳥居	1 基	石造、間口 4.6m、高さ 5.1m
	住吉大社北脇参道角鳥居	1 基	石造、間口 4.6m、高さ 5.0m
	住吉大社摂社若宮八幡宮鳥居	1 基	石造、間口 2.0m、高さ 2.3m

(註4) 文化財データベース及び報告書に、住吉造に準じるとされている。本殿以外の住吉造、また準じたものの詳細は表2のとおり。

(註5) 奈良時代には式年造替の記録があり永享六年(1434)まで確認されるが、その後中世においては修繕などが行われた記録にとどまっている。慶長の造営では、石山合戦で焼失した本殿の他、御旅所、神宮寺の門、東西塔、鳥居等、境内を構成する建造物を数多く造営している。文化の造営では、現在の本宮4棟等が古式に基づき造営された。

(註6) 「住吉松葉大記」とは、元禄15年に住吉郡の郡吏である遠藤新兵衛と萬年長十郎の両名が住吉神社の破損状況を検分したが、それに際し神主津守国教が神社・仏閣・門・堀・瑞牆・橋梁などの尺度を記録させていたものを、梅園惟朝が松葉大記に収録したものという。国重要文化財「住吉大社」の附にも指定される。宝永造営以前、つまり承応年間に行われた造営、または一部はそれ以前の境内の様子を示している可能性があると考えられる。

(註7) 『摂津国住吉社境内絵図』(京都府立京都学・歴彩館)は、承応2年(1653)の年紀をもち、江戸幕府の京都大工を務めた中井家に伝来した指図の一つである。

(註8) 一般的に虹梁の絵様については、「江戸時代初期は渦、若葉ともに彫りが浅く、幅は狭い。そして渦は円形に近く、若葉は簡単である。前期以降、次第に彫りは深く、幅も広くなっていき、しのぎが目立つようになる。そして渦は楕円状につぶれ、木瓜がつく例もみられ、若葉は長く延び、華やかさを増してくる」(「近世社寺建築の手びき：みかたと調べかた」参照)とされている。

(註9) 境内の中で最も古い社殿は、重要文化財に指定されている招魂社本殿であるが、もとは社殿ではなく仏殿(護摩堂)である。なお、その他の社殿の建築年代については、以下表にてまとめる。

表2 住吉大社境内内社殿の建築年代表と形式(建築年代は文化財データベースを参照、年代順)

社殿名称	建築年代	形式	国指定／国登録
住吉大社末社 招魂社(旧護摩堂)	元和5年(1619)	桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、向拝一間、本瓦葺	国重文
住吉大社摂社志賀神社本殿	17世紀後期(1650以降)	三間社流造、見世棚、本瓦葺	国登録
住吉大社摂社大海神社本殿	宝永5年(1708)	住吉造、檜皮葺	国登録
住吉大社本殿(第1殿から第4殿)	文化7年(1810)	住吉造、檜皮葺	国宝
住吉大社末社侍者社本殿	文政5年(1822)	一間社、入母屋造、檜皮葺、	国登録
住吉大社末社侍者社拝所・神饌所	文政5年(1822)	桁行六間梁間三間、切妻造銅板葺妻入	国登録
住吉大社末社立間社本殿	文政11年(1828)	一間社、切妻造本瓦葺妻入、住吉造に準じる	国登録
住吉大社摂社若宮八幡宮本殿	江戸後期	一間社、切妻造本瓦葺妻入、住吉造に準じる	国登録
住吉大社末社龍社本殿	江戸後期	一間社、切妻造本瓦葺妻入、住吉造に準じる	国登録
住吉大社末社貴船社本殿	江戸後期	一間社、切妻造本瓦葺妻入、住吉造に準じる	国登録
住吉大社末社后土社本殿	江戸後期	一間社、切妻造桧瓦葺妻入、住吉造に準じる	国登録
住吉大社摂社船玉神社本殿	明治前期	一間社、切妻造檜皮葺妻入、住吉造に準じる	国登録

住吉大社末社楠瑠社本殿	昭和 29 年 (1954)	一間社、切妻造銅板葺妻入、住吉造に準じる	国登録
住吉大社末社楠瑠社拝殿	昭和 31 年 (1956)	切妻造平入、入母屋造妻入	国登録
住吉大社末社五社本殿	昭和 39 年 (1964)	五間社流造、本瓦葺	国登録

(註 10) 明治 11 年に大久保利通によって、檜皮葺きから瓦葺きのように文書（「末社屋根替之伺」）が出ていることから、以後本瓦葺きにしたと考えられる。

(註 11) 当社殿の内部は、元は一室であった。宝永造営の結果を示す資料である『摂州住吉社御造営記』（宝永 5 年（1708））には「是迄扉一重ニ而狗犬置場無之、順=付今度内扉出来」とあり、この時内外陣に分けられたと考えられる。

(註 12) 『葦の若葉』には、「若宮八幡の宮あり、神前の扉に松と鶴を画きて錠を下せり、延享四丁卯七月吉旦、泉州堺の住画工杉森由泉筆とあり」と記載されている。

(註 13) 『住吉松葉大記録』 間数部には、「一 八幡社 杼葺 桁行七尺八寸 六尺二寸 軒高自礎九尺一寸五分」と、明治初期の『摂津国住吉社境内絵図』には「桁行七尺八寸 六尺二寸」とあって一致している。またこの数値は現状とも一致している。『摂津国住吉社境内絵図』は、明治期の廃仏毀釈後の絵図とされる。

(註 14) 『摂津国一之宮住吉大神宮境内之絵図』は、東を上にして中央に本社四社が配される境内全域の絵図となる。御文庫が描かれていることから、享保 8 年以降の制作とされる。

(註 15) 大阪の商業出版は 17 世紀中期頃から始まり、井原西鶴や近松門左衛門などによってベストセラーが生み出され活発な活動となっていく。一方で、海賊版の刊行が相次いでいたことから、本屋間で自主的に規則を作って監視する「本屋仲間」の体制を作ったことが知られ、大阪にも「大坂本屋仲間」が組織された。

(註 16) 住吉大社の御文庫の類例としては天満宮御文庫があるが、天保 8 年（1727）に焼失している。

(註 17) 外観は八角に縁取った鉄扉を嵌めるが、内側から確認すると丸窓となっている。

【参考文献】

- ・住吉大社歴史的建造物調査委員会『住吉大社歴史的建造物調査報告書』住吉大社奉賛会 2009.10
- ・大阪府教育委員会文化財保護課『大阪府の近世社寺建築：近世社寺建築緊急調査報告書』1987.3
- ・桜井敏雄、多田準二『大阪府神社本殿遺構集成』法政大学出版局 1983.6
- ・立川青裳堂書店『日本書誌学大系 89-5』立川青裳堂書店 2007.10
- ・大阪 大阪書林御文庫講 『大阪書林御文庫講創立 300 年』2023.09
- ・日本建築史研究会編『近世社寺建築の手びき:みかたと調べかた』日本建築史研究会 1983.3

【図版典拠】

写真 1—6 筆者撮影

図 1—10 住吉大社歴史的建造物調査委員会『住吉大社歴史的建造物調査報告書』住吉大社奉賛会 2009.10



写真1 摂社志賀社本殿（正面）



写真2 摂社志賀社本殿（南側面）



写真3 摂社若宮八幡宮本殿（正面）

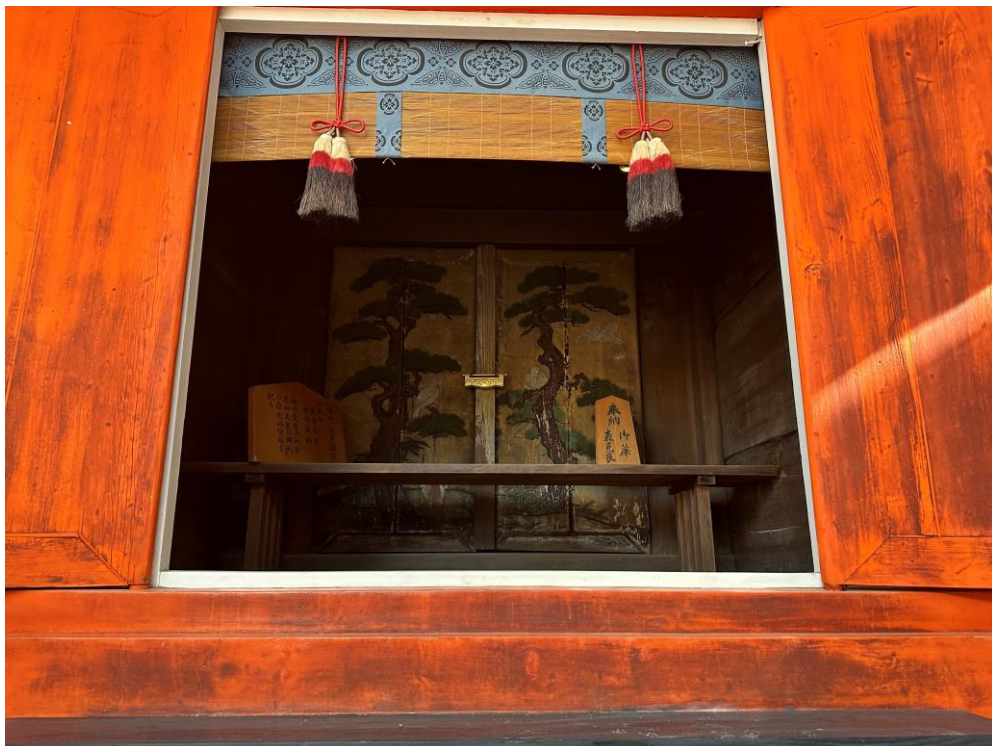


写真4 摂社若宮八幡宮本殿（外陣）



写真5 御文庫（正面）



写真6 御文庫（西側面）



図1 境内配置図（指定候補は赤い網掛け）

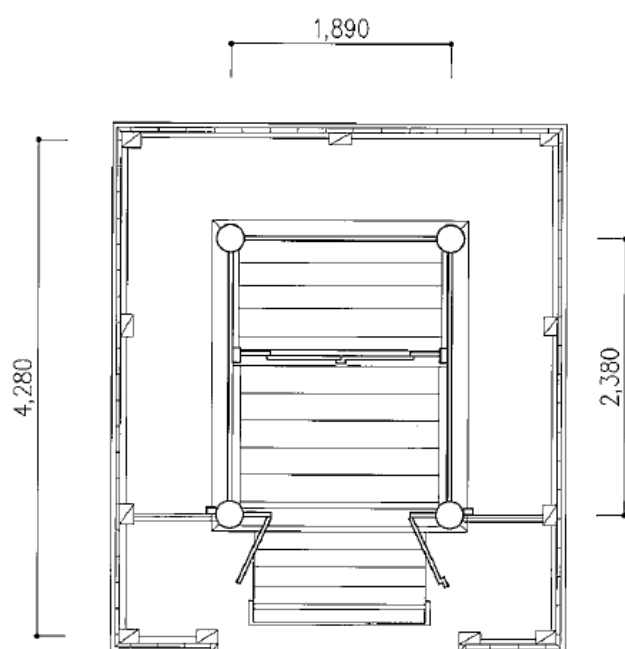


図4 若宮八幡宮本殿 平面図

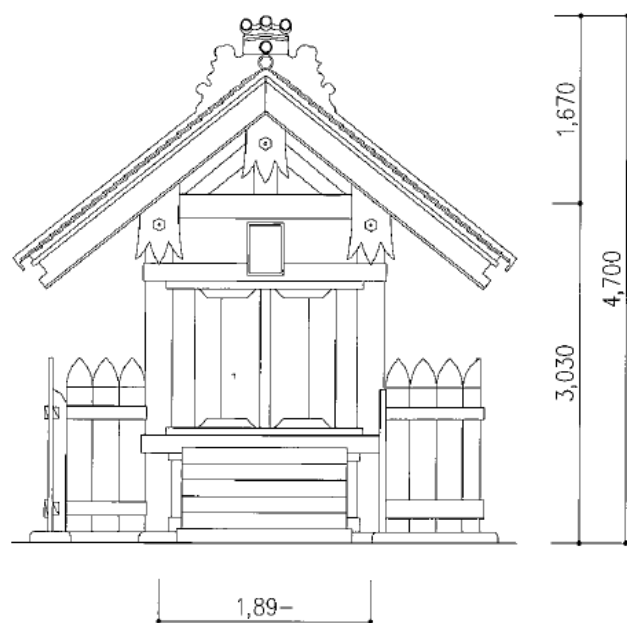


図5 若宮八幡宮本殿 立面図

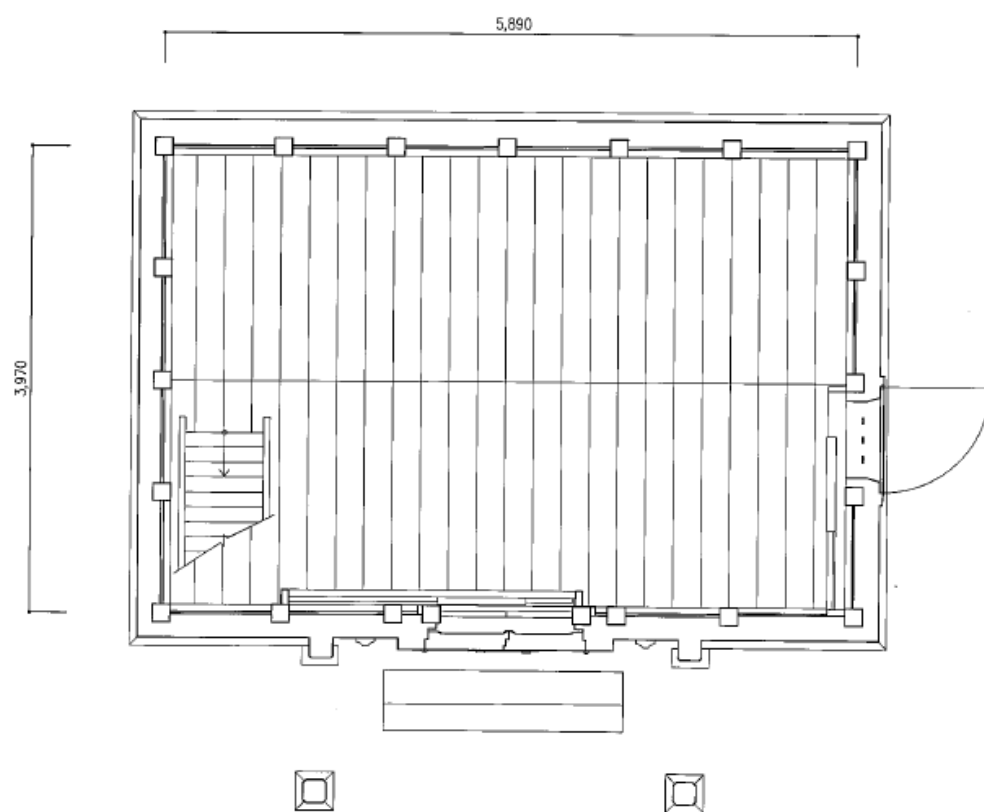


図6 御文庫平面図1階

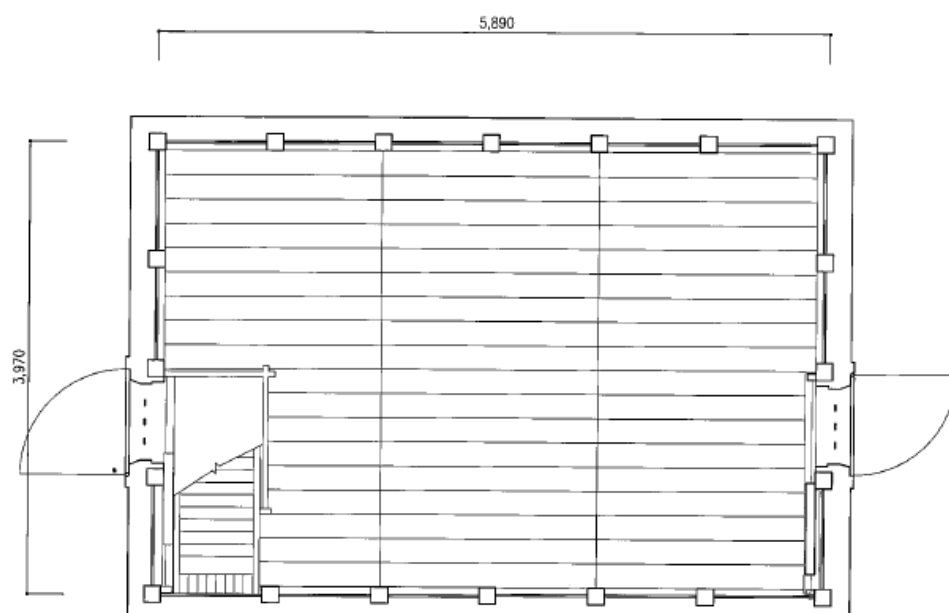


図7 御文庫平面図2階

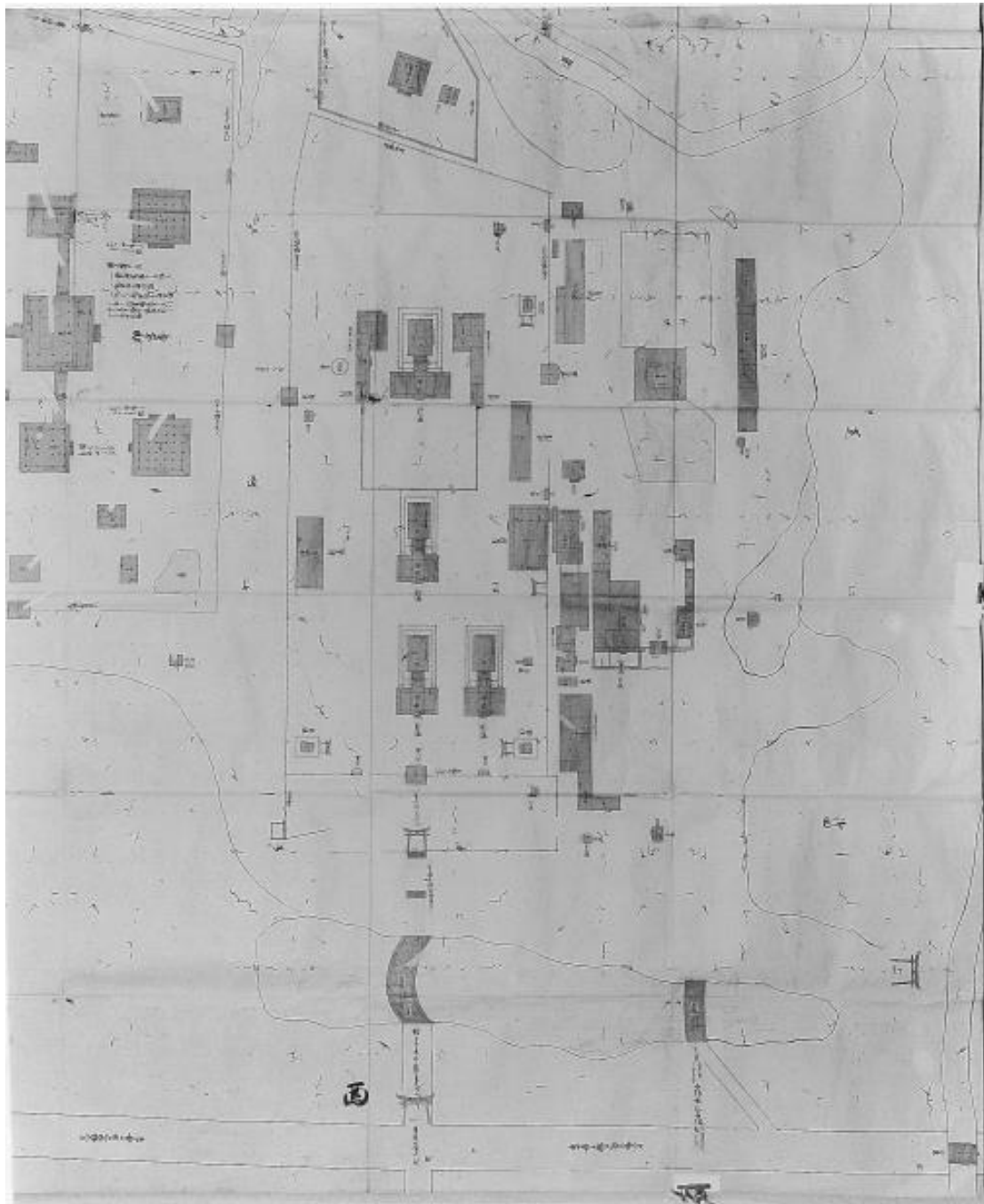


図8 摂津国住吉社境内絵図（承応2年）

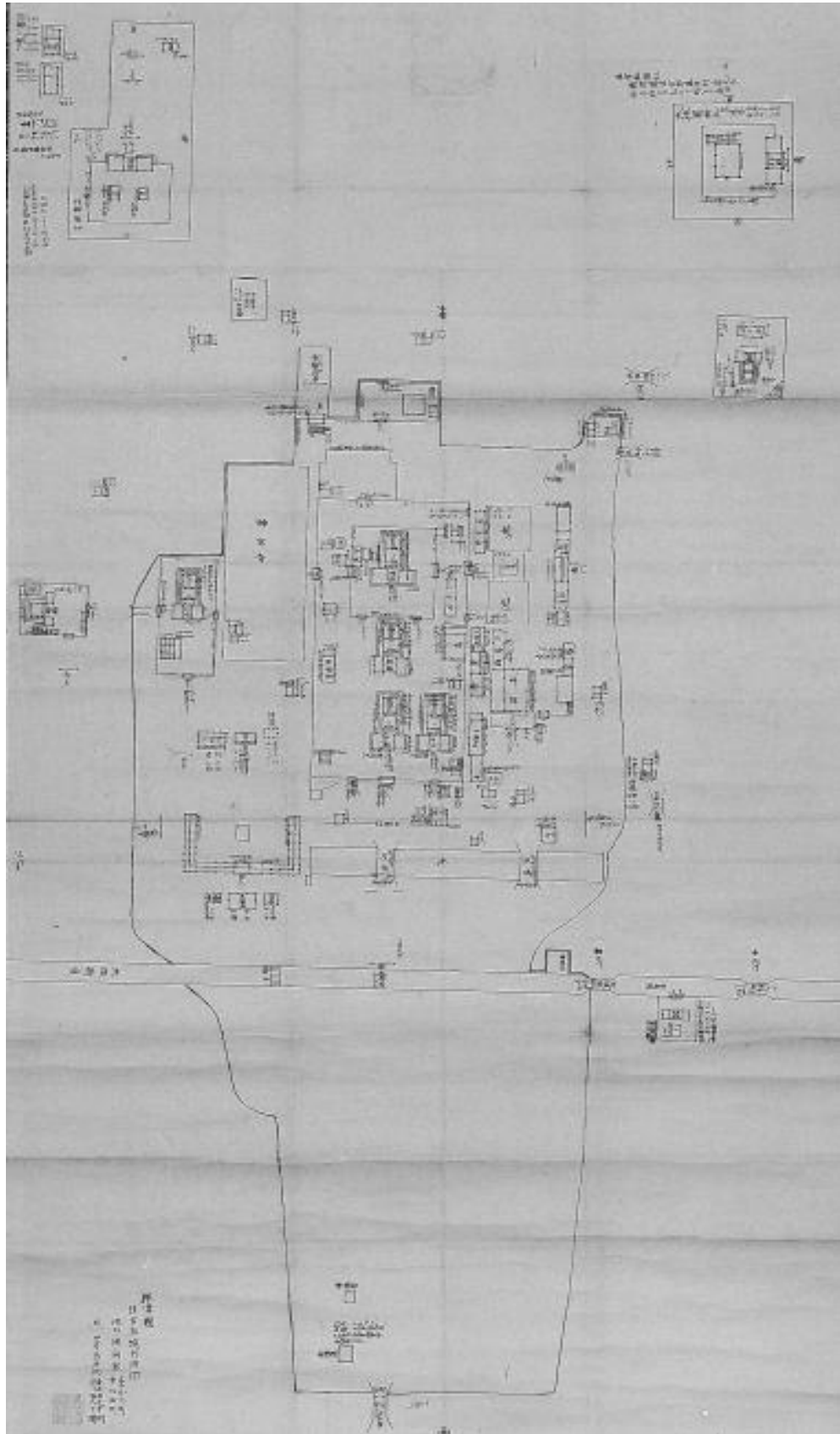


図9 摂津国住吉社境内絵図（明治初期）

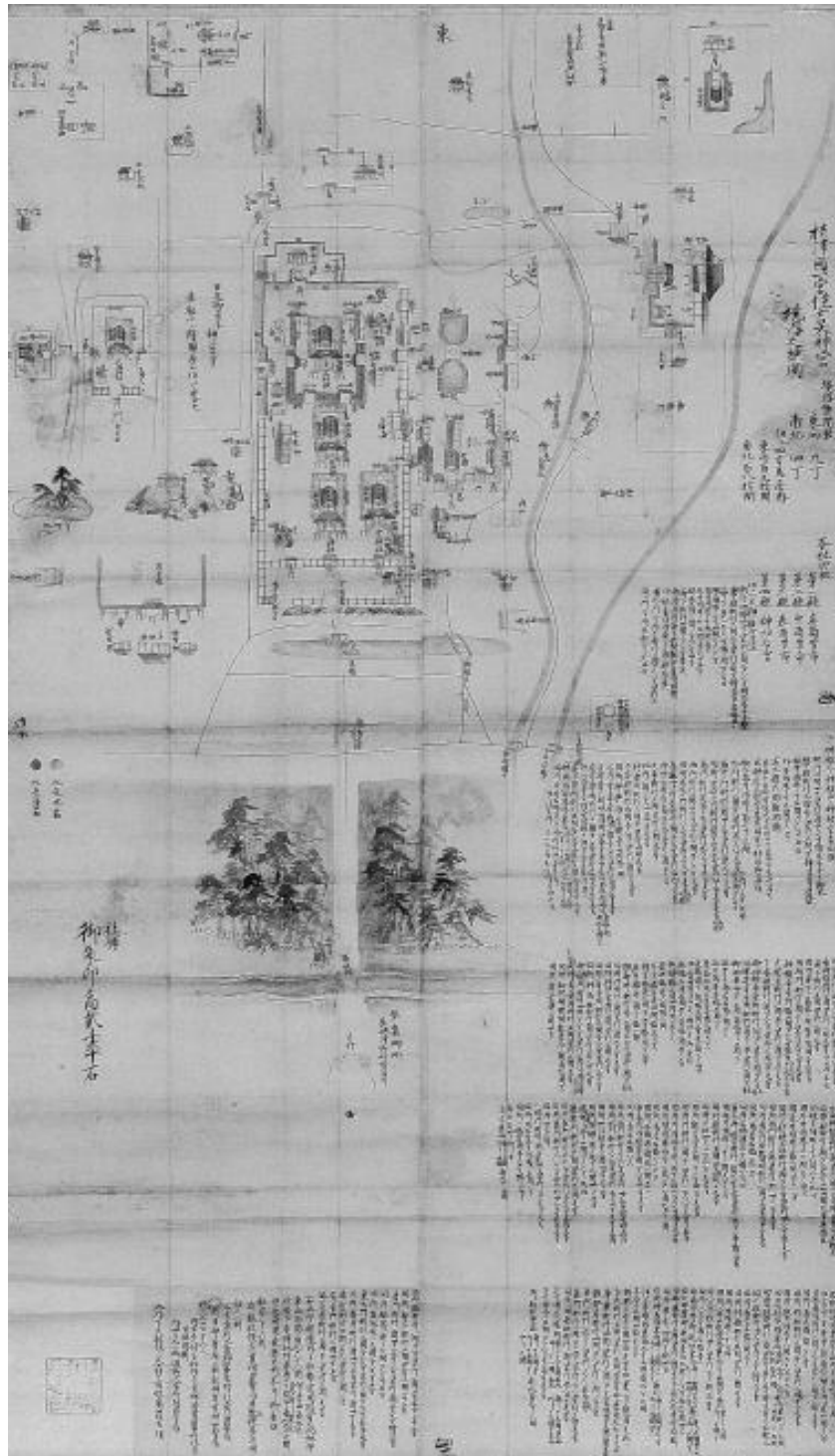


図 10 摂津国一之宮住吉大神宮境内之絵図（享保8年以降）